2026 年度 講座・出前授業報告書 No. 18

開催日 時	2026 年 9 月 15 日（火）　開始時間　8：50　　終了時間　11：00						
開催場所	中央小学校						
実施内容	3 年生プラスチック						
学年、組、等	3 年 1 組						参加児童数計
児童数	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	
	24	2					24
スタッフ	7 名	実施機関スタッフ		2 名			

1　概要

「どうしようかﾌﾟﾗｽﾁｯｸ」というテーマで、現在我々の生活で無くてはならないものになったﾌﾟﾗｽﾁｯｸについて、良いところ､残念なところを､ﾌﾟﾗｽﾁｯｸの特性等を児童に確認しながら考えてもらった。

2　実施内容

・PPT を使い講座リーダー会員がﾌﾟﾗｽﾁｯｸについて､児童に色々質問を投げかけ､児童はそれを考え、発表しながら授業を進めた。

具体的には

・私たちの毎日の暮らしの中でﾌﾟﾗｽﾁｯｸはどこに使われているか？

・毎日の生活の中で、昔使われていた木等の自然界の材料を使った道具を見せて、これは何？と問いかけ、現在はﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製に変わった道具を見せた。

具体的には、竹の皮の梱包材、ヘチマタワシ、木の洗面器など

・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸの良いところ残念なところを児童に書き出してもらいそれを他の児童と話し合った。

・残念なところの使用済みﾌﾟﾗｽﾁｯｸの自然界への廃棄処分や焼却処分時の CO2 発生を話し合った

・自然界への廃棄処分では海に流れたﾌﾟﾗｽﾁｯｸはどうなるか？浮くか沈むか？を実際に確認した
具体的には塩水と真水に 1 ㎝程度に切ったペットボトル本体､ペットボトル蓋､ラベルの 3 つについて児童が予想を書きだし､実際に塩水、真水を入れたﾋﾞｰｶｰに入れ､浮くか沈むか観察した。
その結果､ﾌﾟﾗｽﾁｯｸでも材質により浮かぶもの沈むもの浮遊するものがある事を理解した。

・海のﾌﾟﾗｽﾁｯｸは次第に細かくなり魚が食べる事を説明後、児童が魚の内臓を取り出し､リーダーが拡大鏡で胃の中身を撮影し児童に見せた。ﾏｲｸﾛﾌﾟﾗｽﾁｯｸが胃の中にあることが分かった。

・最後に今後どうしたらいいのか？各児童に考えてもらった。

3　良かった点、課題点など

・授業後､児童の感想で、「ﾌﾟﾗｽﾁｯｸの良い点､悪い点が理解出来､特に使用後の廃却処理が大切と思った。」との事で､授業で重視していたことを児童に理解してもらえた。

・海に流れ出たﾌﾟﾗｽﾁｯｸがどうなるか理解する為､ﾌﾟﾗｽﾁｯｸの材質違いによる比重の違いを児童が真水、塩水にﾌﾟﾗｽﾁｯｸを入れ確認。又､魚がﾏｲｸﾛﾌﾟﾗｽﾁｯｸを食べ､それが胃にある事を確認する為､児童がｶﾀｸﾁｲﾜｼの胃を取り出した。どちらも児童は興味津々で楽しそうにやった。自分の手で実際に色々やる事の重要性が再認識できた。

・リーダーが教壇で説明時､PPT や映像が教室後方からは見えにくく対策が必要






